

真庭市制施行10周年記念式典

真庭市誕生から10年 500人が新たな船出を祝う



祝祭合唱団と祝祭管弦楽団が節目を記念して作曲された曲を披露

オープニング

Twinkle of the river

作曲・フルート：AKIKO
ピアノ：多久雅三



オープニングで真庭の映像に合わせ演奏するAKIKO（真庭市在住）さんと多久さん

3月22日、真庭市制施行10周年記念式典が久世エスパセセンターで開催され、行政関係者や市民ら約500人が参加。市内高校生による市民憲章朗読、市政に功労があった28個人・団体への表彰状・感謝状の贈呈などが行われました。式典の後半は市民で作るコンサート形式で、この日のために結成された祝祭合唱団と祝祭管弦楽団が、10周年を記念して作曲された「水々集う」と「まにわのるら」を初披露しました。式典の最後は、来場者全員で「ふるさと」を歌い閉幕しました。また、会場には10周年記念版まにぞうの原画展示や市民から応募された真庭の「人」展が来場者の目を楽しませていました。

市民コンサート

[祝祭合唱団]

1. 大地讃頌
2. 明日に架ける橋

[祝祭管弦楽団]

3. ボレロ
4. 水々集う

[祝祭管弦楽団と祝祭合唱団]

5. まにわのるら

[全体合唱]

ふるさと



①

①主催者あいさつで「これまでの既存概念を乗り越え、挑戦する自治体だけが生き残れる。大合併の成果を発揮できるよう市民とともに歩みたい」と述べる太田市長②10周年記念版まにぞうの原画を見る来場者③真庭の「人」展で知り合いを探す来場者

表彰状・感謝状贈呈

市政に功労のあった個人、団体の皆さんに対して表彰状、感謝状が渡されました。真庭市誕生以来8年間真庭市長を務められた井手紘一郎氏が自治功労表彰を受けられたほか、20人(団体)に表彰状が、8人(団体)に感謝状が贈呈されました。(敬称略・順不同)



～自治功労表彰～

井手紘一郎

～一般表彰～

木質資源安定供給協議会
真庭バイオマス発電(株)

石賀 久
(株)トンボ

NPO法人勝山・町並み委員会

國本敏雄

寺坂昌三

高月国光

矢吹良文

高本敦基

安東彩羽

森田岳人

森田大地

行部仁香乃

大倉僚介

築澤咲音

田中来菜実

樋口重敏

原田喜市

～感謝状～

杉山元巳

金田達三

田中直子

藻谷浩介

井上恭介

夜久恭裕

(一社)真庭市医師会

(一社)真庭歯科医師会



会場に響き渡る歌声の祝祭合唱団



祝祭管弦楽団による迫力のある演奏



市民憲章朗読

有平英樹(真庭高校)
笹尾陽香(勝山高校)
宮本直樹(真庭高校)
大森早葵(勝山高校)
梶岡陽菜(真庭高校)
磯田光希(勝山高校)
林 優花(真庭高校)
小河原颯馬(真庭高校)

真庭高校と勝山高校の生徒が、市民憲章を順番に朗読



「真庭ライフスタイル・真庭市の豊かさ」の 実現を目指す出発点に立って

平成27年3月第1回真庭市議会定例会が開催され、太田昇市長が所信表明演説を行いました。その要旨をお伝えします。

少子高齢化とあらゆる面で格差がわが国の重要な問題であることはいうまでもありません。これらの問題に対応する処方箋の一つが、「地方創生」であると考えています。

真庭市では、この問題意識を持って、既に一昨年からさまざまな取り組みを始めています。第2次真庭市総合計画の前倒し策定、地域おこし協



安倍首相から認定証を受け取る太田市長

力隊の導入、交流定住センターの設置、地域活性化モデルケースの取り組みなどです。これらが、改正地域再生法による「地域再生計画」の第一号認定や、政府の「まち・ひと・しごと創生」関連補正予算への迅速な対応へとつながっており、現在のところ、地方創生の動きを先取りする対応ができているものと思っています。

ポイント①

新総合計画の推進

新総合計画が4月からスタートしました。この計画は、今と将来に向けて「やるべきこと」「できること」を市民の皆さんと一緒に考えていくための「道しるべ」です。

これに基づいて個別計画を

策定していきますが、急を要するものは計画策定を待つことなく適宜実施していきます。そのための基礎データは当然人口です。これから人口減少と高齢化が急速に進み、年齢構成が大きく変化しますが、減少を少しでも緩やかにし、なるべく早く年齢構成を安定させるように努めなければなりません。人口の社会増（転入超過）に果敢に挑戦し、自然減を減少させていくためには、安心して子育てや教育ができる環境の整備、経済活動の維持発展、社会保障の安定などを図ることが、将来の行政経営にとって極めて重要です。真庭市では、25年後の2040年に総人口を3万4千人とする目標値を設定し、全ての施策をこの目標に結び付けていきます。この厳しい目標は行政だけで達成できるものではなく、市民全体の行動や市民運動との連携が不可欠です。

新総合計画を推進し、地方創生に意欲的に取り組む
時代を見据えた「カイカク・カイゼン」を実行し
誇りと魅力に溢れる真庭づくりを

表明



地方創生の取り組み

地方創生を推進するため、これから5年間で実施する施策を「まち・ひと・しごと創生総合戦略」としてまとめます。真庭市が持続可能な地方都市として生き残るために、市民と行政が将来を見据えた議論を行い、市民参加による総合戦略を策定する考えです。この戦略を、新総合計画の実施計画と位置付けて、具体的な施策や事業を展開してまいります。

具体的には、雇用創出分野では、CLT普及推進や真庭産材の安定供給のための仕組みづくりなどに取り組み「木を使い切る真庭」創造事業を実施します。真庭市を林業経営のさらなる先進地にするため、林業特区も視野に入れていきたいと考えています。また、交流・定住分野では、4月から各地域の市民が推進の主役となった地域活性化事業を中心に展開します。中世式内八社の歴史をつなぐ事業（湯原）、香香館を活用した交流定住拠点創出事業（美甘）、

異業種交流事業（北房）などです。さらに、子育て・教育分野では、本の香りがするまちづくり事業、都市づくり分野では公共交通ネットワーク再編検討事業などを展開することとしています。そのほか、市内消費を刺激するプレミアム商品券事業、ひとり親世帯の生活支援として子育て世帯応援事業などにも取り組んでいます。



3月に完成したCLT春日住宅

キーワード

カイカクとカイゼン

新総合計画策定の過程で、「ものがたり会議」が政策提言「山中八咲」をとりまとめるなど大きく寄与しました。これを教訓として、戦略策定にお

いても市役所と市民が対等な立場で議論し、意見を交換し合う『市民会議』を立ち上げたいと考えています。市民会議は、「産官学金労言※」と「一般公募」により構成し、政策提言をしていただくとともに、戦略策定後も、地方創生事業の推進エンジンとなることを期待しています。

地方創生を推進するためには、普遍的な基本条件があることを歴史から学ばなければなりません。その一つは、地域経済の活性化であり、二つ目は、次代を担う人材養成と若者の活躍です。そして三つ目が、行政推進体制が質実剛健かつ健全財政であることです。この視点に立ち、時代の動向を見据えながら大胆かつ緻密に「カイカク・カイゼン」を進め、地方創生の総合戦略を作り上げてまいります。目指すのは、市民の皆さんが将来への希望に溢れ、今を生きること誇りを持ち、真庭市に住み続けたいと実感できるようなまちづくり。人や企業を引きつける魅力ある真庭づくりを進め、「真庭ライフスタイル・真庭市の豊かさ」を実現したいと考えています。



所信

※産官学金労言とは
産業界(産)、行政(官)、教育機関(学)、金融機関(金)、労働団体(労)、マスコミ(言)の各界が協力して物事を進めていくという視点